

令和6年度

公益社団法人 埼玉県医療社会事業協会

議 事 録

第10回 理事会

日時：令和7年3月28日（金）

場所：協会事務所＋オンライン会議（Zoom）

1 開催日時: 令和7年3月28日(金) 14:15～17:47

2 開催場所: 協会事務所、オンライン会議 (Zoom) 併用

3 出席者: 理事15名、監事2名、顧問1名、幹事1名 計19名

出席:

(理事) 杉山 明伸、大塚智秋 (Zoom 14:30～)、竹内潤子、平野朋美、橋村健司 (Zoom)、山梨誠、門岡高太郎、倉橋 (松本) 浩一 (Zoom)、長岡杏奈 (Zoom 15:00)、飯田里美、高瀬紀子、東 (竹野) みはる、千賀英昭 (Zoom)、森田(近内) 晴美 (Zoom)、竹本耕造 (Zoom)

(監事) 永井薫 (Zoom 16:30)、吉越千昭 (Zoom)

(顧問) 堀口泰正 (Zoom)

(幹事) 吉田穂菜美 (Zoom)

欠席:

(理事)

4 定足数確認 (定足数8名)

理事 参加15名の出席で理事会は成立。

5 役割分担

議長: 杉山明伸 書記: 吉田穂菜美 (幹事)

議事録署名人: 杉山明伸、永井薫、吉越千昭

6 代表理事より: 杉山会長

日本医療ソーシャルワーカー協会の全国大会が6月後半に開催予定。例年は年2回会長会が行われており、1回は全国大会に合わせて会長会 (全国大会の前日) が開催されている。今回は、新しい会長か他の理事に参加していただくこととなる。

7 報告事項、討議事項

1) 関係機関・関係団体主催会議の参加報告

①令和6年度埼玉県高次脳機能障害支援体制整備推進委員会について：松本理事（資料参照）

大きな拠点病院となっているのは霞が関南病院、春日部厚生病院。来年度の委員は霞が関南病院か春日部厚生病院の方をお願いする方が良いのではないかと考えている。委員の任期は2年。

→任期が終了する訳ではないので、今後具体的な話になった際に再度検討する。

②令和6年度埼玉県脳卒中・心臓病その他の循環器病対策推進協議会第2回心疾患部会について：大塚副会長（資料参照）

2月20日に開催された。今まではネットワーク作りが主であったが、今後は多職種連携・地域連携について行っていく方針となっている。現状の取り組み評価では「治療と仕事の両立支援・就労支援」が課題として認識されている。連携はまだ医療連携（救急搬送時の鑑別等）が中心となっている現状である。

大野知事がジェンダー問題について各所に検討するよう投げかけているようで、県からは循環器領域における性差医療に関するガイドラインがどの程度浸透しているか質問があったが、現場の医師としては浸透していない印象である。

平野理事：治療と仕事の両立支援については、現在がん患者だけではなく他の分野でも話題に挙がっている。現場ではMSWはどのような対応をしているのか。

大塚副会長：長期療養の患者さんとして難病や心疾患の方も対象としているが、相談件数はそんなに伸びていない。医師への意識付けもなかなかできていない。診療報酬上での算定件数も増えていない。

竹内副会長：ハローワーク川口の就職支援ナビゲーターの方に来ていただいて、就職相談を受けている。コロナ禍もあり、件数は増えていない。脳卒中患者の障害年金請求等について支援を行っている。

③令和6年度第2回埼玉県脳卒中・心臓病その他の循環器病対策推進協議会第2回の脳卒中部会について：高瀬財務部長（資料参照）

2月27日に開催された。第2期計画がスタートして、64の指標をどこまで達成できたかの報告・話し合いが行われた。両立支援について産業医との連携、現場の実情についての意見交換が行われた。現場では高齢者分野での両立支援の動きは少なく、障害者雇用や就労継続支援（A型・B型）の利用が多いとの意見交換があった。性差医療については、脳卒中の分野で研究され報告書が出されているが、現場では活用しているかどうかの質問があったが、現状治療や予後には影響を感じていないとの意見があった。

④令和6年度第2回埼玉県脳卒中・心臓病その他の循環器病対策推進協議会について：竹内副会長（資料参照）

丸木先生が議長となって会議が進められた。公募委員の秋山さんより、罹患者としての経験と両立支援コーディネーターの立場からの発言があった。また、埼玉県消防局（川越救急）による、救急搬送時の情報連携に関するビデオ紹介があった。

平野理事：名簿の性別表記があるのはどうしてなのか。

以前埼玉県から委員の男女比として女性の委員を推薦してほしいとの要望があったため、その影響と思われる。

⑤埼玉県社会福祉協議会福祉研修委員会委員の推薦について：竹内副会長（資料参照）

今年度の委員の任期は3月31日までとなっている。2年任期。

→来年度の委員の推薦について、引き続き竹内副会長にお願いする。

⑥令和7年度全国医療ソーシャルワーカー協会会長会について：杉山会長

冒頭の会長からの挨拶で報告済み。

⑦第51回日本診療情報管理学会学術大会への後援依頼について：竹野事務局長（資料参照）

→後援することを理事会にて承認。

⑧内閣府「性犯罪・性暴力被害者支援のための医療関係者向けの研修」について：平野理事（資料参照）

内閣府主催のオンライン研修開催。竹野事務局長と平野理事が参加。産婦人科医による基本的な診察、証拠保全、裁判等について丁寧な解説、精神科医による心のケアに関する内容で、児童分野や家族支援の観点からも有益だった。

⑨第8回日本がんリンパ浮腫理学療法学会学術大会の後援依頼：竹野事務局長

11月1日～2日大宮ソニックシティで開催予定。

→後援することを理事会にて承認。

⑩その他：杉山会長

医療ソーシャルワーカー（MSW）が関与したとされる大阪の高齢者施設入所斡旋と金銭授受の問題が、朝日新聞に掲載された。日本協会はこれに関する実態調査を行った。しかし、関与した人は当然回答はしないと考える。綺麗事ではなく、MSWの業務の実情を直視する必要があるのではないかと思う。

千賀理事：MSWが退院支援を行う中、医療支援・経営支援という考えの中で、出てきた問題であると思う。医療ヒエラルキーや病院経営支援といった構造的な問題として捉えるべきだと思う。

竹本理事：退院先（例えばSSS）がどういうところかわかった上で退院支援を行っているのかと、以前先輩に指摘されたことがあった。自分自身が自覚しているかどうかを認識する必要がある。

協会としてこの問題にどう向き合うかは、社会活動部等での検討事項となり得る。身元保証問題を検討する際、念頭に置く必要がある。

2）各部局からの報告

（1）総務部：橋村総務部長（資料参照）

①会員状況

2月21日時点で、東部65名、西部127名、南部112名、北部88名、合計392名。第1号会員は387名、第2号会員は5名。

②各ブロック活動報告（資料参照）

西部ブロックは埼玉医科大学総合医療センター、埼玉石心会病院の委員が変更予定。

南部ブロックは責任者が自治医科大学附属さいたま医療センターの塚田さんから上平地域包括支援センターの殿岡さんに変更。

③令和7年度役員改選について

現在理事1名が欠員の状態。

千賀理事：現在ICT部門長の清水さんに理事をお願いしたいと考えている。もし清水さんが難しければ、東部ブロック責任者である泉谷さんに依頼することを考えている。

外部顧問をお願いする菊地さんには、事務局から県協会の資料を送付済み。

④組織改革案：千賀理事（別紙参照）

現在の組織は縦割りの状況であり、個人の役割として閉じ込められてしまっている。お互いを相互に補完し合う関係を築いていくことが重要だと思う。多数決ではなく、活発な意見交換で決めて行ければと思っている。

松本理事：統合していくことに関しては賛成である。以前から業務過多も懸念されていたので、今後建設的な話し合いができたと思う。

橋村総務部長：事務局と総務部が合併することで新しい形が生まれると思う。

竹内副会長：県協会全体の体制を見直していく必要があるのではないかなと思う。業務が重なるところは当然あると思う。時間をかけて話し合いが必要だと感じる。

杉山会長：会員を増やすには、研修を充実させることだと思うが、理事が日頃の業務を行いながら、県協会の業務を行うことの大変さもある。

門岡研修部長：今後理事の業務が苦にならないような仕組みを考えていかなければいけないと感じる。

千賀理事：組織の形を変えることだけではなく、協働の文化を創ることを目指していきたい。

竹野事務局長：2年間事務所員としても役割を担ってきた。部局内だけではなく、他の部局からの相談や手伝いを行っている。

山梨理事：とりあえずやってみて始めるのも良いきっかけになると思う。本日も事務所移転の内覧も事務局だけではなく、財務部の高瀬さんや竹内副会長も参加してくださった。

永井監事：前回の組織改変では、組織検討委員会5名で2年間審議して、理事会に報告書を提出してもらった。ブロック割の変更、ブロック費の金額等も合わせて検討していた。また、同時期に普及部から社会活動部へ変更、MSW Saitamaの発行を社会活動部から総務部へ変更した。理事の人数変更も含め、合わせて協議した方が良いと思うが、段階的に事務局と総務部の統合をお試しに進めて、業務を一緒に行うのも良いと思う。

千賀理事：現実的に一緒に行っていくのは効率的にも難しい。現在も事務局とは相互に連携しているため、目に見える形で協働の文化を創っていきたい。

平野理事：事務局と総務部を統合したとしても従来の業務内容もさほど変わらないとも思う。

飯田理事：統合して相談しやすい環境になるのかどうか。

大塚副会長：部局ごとに重なり合う部分もあるので、部局が分かれていることにより効率が悪くなっていることもあるのだと思う。業務の内容が重なる部分が多いのは事務局と総務部だと思うが、総務部の業務内容が全て事務局に入るのかどうかも検討が必要なのではないか。

千賀理事：全体から見るのではなく、できるところから始めていく。それがどんどん広がって、全体を見直していくのが良いのではないかと考えている。統合はしなくても、協働の文化を創るという意見に賛同してもらうだけでも良い。本日の理事会で他の理事の話を聞けて、また次回引き続き理事の方の意見を聞きたいと思った。

杉山会長：各部局が専門化して、他の部局のことが深くわからないという状況になってしまっているのかもしれない。引き続き話し合いをし、問題点を深めていきたい。

近内社会活動部長：コロナ禍で対面で話し合いできず、固定されたメンバーの中でなかなか相談できる体制ではなかった。

→継続審議とする。

（２）研修部：門岡研修部長

①学会について

演題募集しているが、現時点で0件。榊原氏が演題発表予定。また、社会活動部も演題発表とは特別枠で活動報告として参加予定。

②全体研修会について

講師は横須賀市の北見万幸氏に依

頼している。現在松本理事がテーマ等について北見氏と打ち合わせを行っている。70～75分講義、質疑応答。13：30～15：00まで全体研修会、15分休憩後に学会を予定している。

4月21日の週には案内文書を送付予定。

竹内副会長：公文書は全体研修会・学会で各々作成していた。

高瀬財務部長：会費納入の案内も一緒に同封させてもらいたい。

平野理事：定時総会の案内等も4月中には郵送予定。

→一緒に郵送できるよう日程調整を行う。

③自主的研修活動への支援（専門研修会）について（資料参照）

研修部で予算化していなかったことの経緯について説明。支援の内容については何をどこまで支援を求めるかというところで、今回に関しては研修への案内や会員への周知、当日の運営を支援した。講師への交渉の仕方や会場の確保等、研修部としてできることをお手伝いできればと考えている。

（3）社会活動部：近内社会活動部長

①会員アンケートについて

2月26日社会活動部会開催。アンケート結果をホームページでも閲覧できるようにする。研修部に学会発表時間を提案する（別枠で20分程予定）。来年度身元保証・意思決定支援のフォーラムを検討中。令和8年度以降に地域のフェスや福祉まつりで相談会を開催する等考えている。

次回は4月16日部会開催予定。

→アンケート結果はホームページに掲載することを理事会で承認。

（4）財務部：高瀬財務部長

①財務状況報告（別紙参照）

432件納入されていることが報告された。

未納者は27名（37口）、北部4名4口・西部7名9口・東部6名8口・南部10名16口。未納退会者65名。

会費の督促が数件戻ってきてしまったケースあり。また、未納がない方にも督促を行ってしまったケースが確認された。過払い金の返金対応済み。

監査日程については、総会までのスケジュール確定後、速やかに監事と調整する。

②令和6年度決算について（別紙参照）

高瀬財務部長：令和5年度総会資料発送費用に関する領収書（約5万円分）が現在見当たらない状況であり、搜索を継続し、対応策について並木氏とも相談の上、改めて報告する。

（5）事務局

① 公益インフォメーションの登録について：竹野事務局長

登記に必要な電子証明書の申請手続きが完了した。

②令和7年度定時総会について：平野理事（別紙参照）

疾病対策課に定款改正について連絡しているが連絡待ちの状態である。定時総会に必要な事業報告書・決算書等の関係書類の作成は、各部局にGoogleWorksを活用し入力してもらう。

定時総会に関する書類は4月中に郵送予定。議案書等はQRコード読み取り方式を導入予定。

6月14日の定時総会の終了後に理事会を開催し、三役を決定する予定。新理事・監事への書類準備、第2回理事会（拡大理事会）の日程調整を早めに行う。

③事務所の移転について：山梨理事（資料参照）

BIZcomfort大宮西口、BIZcomfort春日部、EXPERT OFFICE大宮、一軒家賃賃との比較表を作成した。

BIZcomfort大宮西口が移転先候補として考えている。理由は個室スペースが比較的広い（棚設置可能）、賃料が現行より約3万円減額、光熱費・通信費込み、会議室が5時間/月 無料（複数拠点利用可）等が挙げられる。暗証番号がわかればポストから鍵を取り出し使用ができる。理事会等の参加人数が多くなる場合の会場は、必要に応じて武蔵浦和のコミュニティセンター等を利用する。

5月には不動産屋と引っ越しについて話して、6月には引っ越しできるよう準備を進めていきたい。空きが埋まってしまう可能性も高いため、早めに決めていきたい。事務所移転に伴う登記変更は、役員変更登記と同時に行う予定（定款変更は不要）。

高瀬財務部長：清掃費11,000円は初期費用だけなのか？5時間無料で会議室が使用できるのはありがたいと感じる。

山梨理事：清掃費は毎月かかるものではなく、初期費用と考えているが、もう一度確認する。

竹野事務局長：固定電話は解約し、携帯電話を購入予定。

→清掃費が初期費用であることが確認できたため、BIZcomfort大宮西口への契約を進めていくことを理事会にて承認。

④今後の協会運営あり方検討委員会報告：竹野事務局長（資料参照）

杉山会長の今後の役職と役員の所属部門の変更についてや協会のガバナンスに関する事等が話し合われた。

千賀理事：公益活動として研修事業実施に関する提案書については、公益社団法人として研修の主な対象者に非会員の専門職を加えることで、研修そのものを公益事業として位置づけていくことを目的としている。

堀口顧問：そもそもの業務が公益性を持っている業務であるから、自分たちの専門性の向上が福祉に寄与するという考えであった。しかし、県協会としての意図が県には伝わらず、広く県民に対しての公益活動を展開することが求められている。

飯田理事：研修の中で、会員向け・非会員向けと区別することはできるのか？

堀口顧問：区別することがだめな訳ではない。「広く県民に向けて」としつつ言われてきた。会員・非会員問わず案内して、実際の参加者が会員だけだったとしても指摘はされないと思う。

杉山会長：会員・非会員向けとすると、以前から話があったように、非会員でなくても研修会に参加できて会員にならないという人が出てくる可能性は懸念される。会員になった方が費用が安い等の対策も必要になってくる。

門岡研修部長：以前の理事会では、ブロック研修は非会員には会費を払って参加してもらう方向で話が進んだ。各ブロック間で対応が違わないように、対応について周知した方が良いのではないかな。

千賀理事：行程表を作成している（今回理事には配布されていない）。細かいことは段階的に進めていき、プロジェクトチームを作り、1年くらいかけて作り上げていくことを想定した。

杉山会長：（杉山会長の今後の役職について）肩書的なことはいらない。今後何か相談があれば対応していきたいと思っている。顧問には引き続き堀口顧問をお願いし、永井監事にも今後アドバイスをいただければと思う。

⑤ICT部門から：平野理事代理報告

3月21日Canva活用セミナーを開催した。会場は武蔵浦和コミュニティセンター使用。申込者にはオンデマンド配信をしている。

8 その他

杉山会長：埼玉県立大学 医療福祉学科の佃准教授が昨年9月に逝去されている。後任には、篠原純史さん（前 文教学院大学、元 国立病院機構高崎医療センターMSW）が就任されると伺っている。

竹本理事：松本理事より、総会終了後に杉山会長のお疲れ様会を含めた懇親会を開催予定との連絡あり。

9 次回理事会の開催について

- ・ 次回理事会は令和7年4月22日(火)14：00から開催する。
- ・ 各部局で緊急を要する事態が発生した場合は、必要に応じてメール審議または緊急オンライン 理事会を開催することとした。

以上を以て議案等の審議を終了し、17：47議長より閉会を宣し、解散した。

上記は理事会議事録に相違ないことを証明する。

令和7年 月 日

議事録署名人（代表理事）

議事録署名人（監事）

議事録署名人（監事）